

県展賞の顔

〈 4 〉

家族や親類をモデルに塑像制作を続け、過去奨励賞を五回。初の最高賞で無鑑査資格を得て、喜びもひとしおだ。新聞で受賞を知り「本当かなと疑いました。目を引く奇抜さはなかったものですが」と謙虚な人柄をうかがわせる。

長女佳恵さん(三巴)のほぼ等身大の立像。高校三年生時の写真をもとにした。直立不動の立ち姿だが、微妙な体のねじれで奥行きを与え、複雑な年ごろの心の内面を表した。そんな中にもやや上目遣いで柔らかな表情を

彫刻

まつもと やすただ
松本 保忠さん(56)

＝長岡市東新町1＝

のぞかせる。

「進路や未来への不安で混沌とした時期。その中にある希望を読み取ってほしい」と語る。

自身は長岡市の新潟職

心の内面塑像に表出

業能力開発促進センターがモデル。都内で暮らして建築技術を教える指導員でもある。「こんな時代だからこそ若い人に希望を持ってほしい」との思いも込められた。二十七年前に同市の将来は興味のある人たちが彫刻家の指導を受けて本格的に制作の世界に「素」と意気込みを語る。

人だった自分も先生に出会って始められた。



「まだ、孫はいませんが、将来は孫の塑像を作りたいですね」と語る松本保忠さん＝長岡市東新町1の自宅

望を持ってほしい」との思いも込められた。二十七年前に同市の将来は興味のある人たちが彫刻家の指導を受けて本格的に制作の世界に「素」と意気込みを語る。

入賞作品も四歳の佳恵さん刻を見るのが好きだっ

県展新潟展は六月一日まで、県民会館(洋画・彫刻・工芸)新潟市美術館(書道・写真)新潟大和(日本画)新潟三越(版画)で開催しています。